essais こころみ　2023年2月

2023年2月1日（水）　曇

昨夕の段階では今日の大阪は晴れのはずだったけど、曇りから雨に変わっている。気温は高めで晴れるからと服装も軽めにしたが、ちょっと

ー　今がいい　ー

50代半ばで現役で、このたび海外のチームへ移籍するというサッカー選手。元同業の人のインタビューに応える様子をたまたまテレビで視た。終わりの2、3分ほどだったけど、“いい感じにならはったなぁ…”

若い頃メディアでさかんに取り上げられ、それに乗じ、興じている感じがしていた。でも今はまったく印象が違う。「若気の至り」も通過して、受け応えに「年の功」がみえる。顔つきや物腰のやわらかさに出ている。

競争はげしい韓国芸能界。シニアとミドルの女優たちがそろって海外旅行をする番組をみた時、合い間にプロデューサーがいじわるな質問を個別にした。「肌も容姿美しい若い頃に戻りたくありませんか？」。

「とんでもない、ぜったいイヤ！」。そう答えたのはミドルだったが、ベテラン大女優も静かな語りで、同じように返答した。「精神的に未熟で、そのことに気づいてなくて、演技はヘタで、どうしようもない」。

「今がいい」、みな同じようにそう言った。世界は違うが、同感。

『老子』に続けて『孫子』を1月から読みはじめた。訳注者が解説で述べているように、「時代や地域を超え広い普遍性を備える」ことをしみじみ感じるし、自分なりに全体をまとめていこうという気になってきた。

そこで今朝ふと考えた。30年近く前から、手帳などに目次や要点をときどきメモしていたのに、なぜ中身をしっかり見ようとしなかったのか。畏れ多い、という気はあった。偏りかねない、そんな想いもどこかにあった。

でも今ならいい…、そんな感じがしていたか…。精神的にも大人になり、そこそこ多様な知にもふれてきた。そうでなければ、『老子』、『孫子』共に、振り翳していたかもしれない。今、そう今だからいい。

2023年2月5日（日）夕方　　大阪城公園梅林、東にのぼったほぼ満月

2023年2月6日（月）　　立春後初の満月、西の空に

2023年2月6日（月） 晴れ

今朝もよく晴れている。午後からは曇りそうだけど、朝に晴れるのがいい。今日は満月、時間は午前3：29だったから、今夜よりも早朝の西空に浮かぶ月の方が満月。今朝起きざま、撮った。

－ 情さえ健全なら －

年3回のリーズレター、その最初の立春レターを4日にアップし終えて、自分自身にとっての当年が本格的に動き出す感、しずかに気合が入ってくる感じ。

それは人も同じのよう。立春レターに応えてとどく返信にその様子がうかがえる。今ではリーズレターだけが音信という人も少なくないが、このレターがあるから、何かのおりに近況を知ることができる。

そうだったのか、そうなんだ、それはすごい！等など、会ってはいないけど、状況や状態、場面や背景がうかんできて、感情や想いを共有する。まさに『人間は超えることができる』。

そういえば「岡潔」が情について語っていた。

「何も知らなくてもうれしい時はうれしい。悲しい時は悲しい。情さえ健全なら人生を送るのにさしつかえない。情は常に働いて、知と意はときに現れる。情あっての知と意」（岡潔）

聴きつづける気がしなくてラジオ番組をけしてしまう話し手がいた。なぜだろうと考えてその時はわからなかったが、あとになってわかった気がした。情が健全でない感じがしたからだ。

耳の痛いことを聴くにしても、本当にこちらのことを思って言ってくれているとわかるのは、情が健全だからだ。情は情でも、健全な情。精進あるのみ、ということか。

2023年2月7日（火）

14年前に出会った受講者の方と10年ぶりに再会。ちょっとした声かけで取引が今もつづくお店で合流。地下鉄長堀橋駅近くの「なないろ」で。季節のものを味わいたいときに絶好のお店。店主も調理の合間に会話にはいって、なんとも温かく、おいしい時間をすごした。

2023年2月8日（水） 曇り

朝一番はよく晴れていたのに、みるみる曇ってきた。ちょっと早すぎるんじゃないか。立春をむかえて寒さもゆるんできたと思ったら、来週はまた寒くなるらしい。季節の変わり目、これをすぎて、春本番。

― コトの意味 ―

出会い、邂逅とは不思議なもの。今ではちょっとわかった風な感じでそう思っているけど、20年前は本当にこれは何だろうと考えた。だから、『偶然性と運命』（木田元）や『偶然とは何か』（イーヴァル・エクランド）などを読んだ。

考えてみて、自分なりの結論は、自分がそうつくっているんだ…。微細なものから目にはっきりみえる自分の言動、そのベースにある深層から表層までの心理、こころの変化、等などが、指数関数的に邂逅へと導

もう一つある。自分の時間の道と、他者の時間の道の交差が出会いではないかと。それぞれ持って生まれた時間の道は決まっていて、時々交

社会人になるまでの学校の級友たちとの出会いはロータリー、その後の個々の交差は路地の出合い頭か。

出会いの不思議さを真剣に考えさせられるほどの出会いに恵まれたことは仕合せなこと。そういうことは案外少ないかもしれない。そう、少ないかもしれない…。そう考えると、さらに意味深いものに感じられる。

“案外少ないかもしれない”。そういう風に考えてみると、自他ともにいろいろとまた気づくこと、見えてくるものがある。

2023年2月10日（金） 雨

今日は雨。気温は9度どまりだから冷たい雨。でも明日から月曜にかけては15℃の日もある。その後またぐっと下がる。季節の変わり目。

― よくできた人 ―

年齢で人は語れない。その上で、年齢で人は語れる。「若いのによくできた人」と感心する若年、「いい年のとり方をしている」と思わせる熟年。どちらも時代に関係なく言えることながら、今は特に前者の場合に

個人的には、男子にはその割合が少なくなっているように思う。採用試験・面接に立ち合うことも何度となくあったが、圧倒的に女子の方が、試験成績も対人のやりとりも、よくできた。

親しくなったそういう女子には、時々言う、「といかく男性はよくみた方がいい。しっかり目をきかして、交際するならしましょう。そうでないと、自分の大事なものを失いかねないですよ」。

なんとなくわかったような顔をして笑みを浮かべる彼女たち。ただ、会社員時代に男性先輩から言われたことも思い出す。

「賢いオトコが馬鹿なオンナと結婚すると馬鹿になるけど、賢いオンナが馬鹿なオトコと結婚しても馬鹿にはならない」。

はるか昔の一言だけど、今も鮮明におぼえている、情景が浮かぶ。その先輩が、俗にいう「チャラ男」だっただけに、なおさら目を瞠った。そんなことを言える人だったのかと、見直した。

つい先日知人の若い女性からメールが届いた。仕事で出会い、ここ数年はリーズレターの時にやりとりするだけ。だから3，4ヶ月に一回ということになるが、いつも近況をよせてくれる。

出会った時から今までも、姿勢は一貫していて、今回もまた感心した。内にそなえる瑞々しい〈たましい〉…、そう、その言葉がふさわしい。

それを保ち続けるには難しい社会になってきている。だから葛藤も多くなるはず。そう想像するけど、さて、どんな未来を歩むか。

2023年2月13日（月）　大阪城公園、これはしだれ梅？ まさか桜？

2023年2月13日（月） 雨

朝から雨。夕方まで降るらしい。土日は暖かったが、明日からまたグッと気温が下がるらしい。これをくりかえして、春がくる。

― 微妙な形（態勢） ―

先月から「孫子」を読みはじめて、第五の勢篇を読み終えたところ。岩波ワイド文庫の金谷治訳注の本。「はしがき」のあとの「解説」に、第一の計篇から第三の謀攻篇まで総説、第四形篇から第六虚実篇は戦術原論、そのあと第十三の用間篇までが実戦についての各論とある。

今はまだ戦術原論の途中だけど、解説にも書いてあったとおり、「個別的な戦争技術としての価値もさることながら、それを越え出て、さらに日常処世のうえから人生の在り方の問題にまでわたって深刻な思索を誘うものが、そこにはある」。

「単なる古い兵書としてのれきしてきな価値に止まるものでなく、さらに時代や地域の限界をも乗り越えてわれわれに訴えるような広い普遍性を備えている」、実にそう思う。

それだけに、読む側の才知が問われる。「技術」だけを掬いとると、長い目でみて〈善くたたかう者〉には成らないのではないか。

第四形編に〈微妙〉という言葉がでてくる。「一般の人には分からない微妙な形（態勢）について目算し…」。敗れるのは、敗れる形・態勢があるもので、それを読むことが大事と説く。

『老子』にも、の全文中出色の章といわれる第十四章に〈微〉で出てくるし、他の章でもたしかあった。

「真に貴重な情報は〈流れの変化〉にある」と書いたのはフランスの著名な数学者。例えば、景気の流れ。他の多くの競争相手がまだ気づいていない微妙な変化を読んで手を打つことが大事なのだと。

経験を重ねながら、それなりに観察していると、うまくいく、いかないの差は、意外に些細なことだとわかってくる。そのベースには状況の微妙な変化を直感的にわかるという、けっして些細でない能力がある。

微妙な形・態勢。「一般の人には分からない」というところがミソ、難。

2023年2月17日（金） 晴れ

日中は暖かくなるらしいけど、早朝は0℃だった。手が室内にいても手がかじかんだ。明日あさっては暖かく、雨もふるよう。19日は「雨水」。

－ 文書にする －

『図説 世界を変えた100の文書』（創元社 2018年）には、現存最古の紀元前300年頃の竹簡『易経』から、2013年の『スノーデンファイル』まで紹介されている。

本の帯には、「〈文書〉こそが、〈歴史〉を作る！」。これに倣えば、「文書こそが、未来をひらく！」。真実、真意、感情、心情、期待、希望、着想、構想、など等を、理性的に、簡潔に、文書に表して伝える。

文書にする、それは仕事上ばかりでない。むしろよく知った間柄の方が、必要な場合もある。感情的にならないための一つの媒体になる。

文書にする。ただ、この発想にならない人が少なくない。直近でもそう感じることがあった。そこであらためて注目したのだった。

思い返せば、公私共に、〈文書〉が問題解決につながってきたと言える。家の退居要請、取引先の誤解、当方からのたっての願い、等々。

各々、正当に請求できるだろう計算表いりの交渉に係る文書、仕事を超えて個人として書いた手紙、直接会って相談する前に想いをつづった文書。どのケースも穏やかに事が進み、落ち着くところに落ち着いた。

文書にする。たぶん、〈書く〉習慣がないと、その発想にはなりにくい。そう考えると、10代のまだ青い頃にいろいろとノートに書いていたから、けっこうこれは糧になっているのかもしれない、成人してからも。

2023年2月19日（日）

「雨水」、雨上がりの夕方、大阪城公園梅林へ

朝からずっと雨、夕方にようやくあがり、まだ雲はおもく垂れこめていたけど、こういう時の方が人は少ないだろうと、自転車散歩。

たしかに人は少なかった。ただ足元がぬかるんで、歩きづらかった。すべって転んだら大変。

だから梅林の奥の一画を歩くだけにして、梅林を後にした。全体的に開花は五分咲き程度。

2023年2月20日（月） 曇→晴

昨日は朝から雨、夕方にあがり、週はじめ今朝はもっと晴れるかと思ったら、まだ雲が多い。今日は新月、旧暦2月のはじまり。

－ 発達個性 －

発達個性。「発達障害」という名前でなくて、発達個性と呼ぶ方がいいと話していた人がいたが、昨年の文科省調査で、小学生では10.4%の割合という結果だったと新聞などで発表された。

多いように感じたけど、なんとなく頷けた。仕事上でこれまでに、その子たちの支援を仕事にしたいという人に6，7人は出会ってきている。適切に診断できる専門医が意外に限られるとも聞いた。診察の予約待ちが数カ月に及ぶとか。

大人になって自分で気づいて、自分なりに努力しているという人の話しを聞いた。時間を守る、この一つにしても、大変なよう。あと10分で家を出ないと時計をみて確認しているのに、気がつけば30分すぎている。

感覚がすっと飛んでしまうという言い方を本人はしていた。飛んでいってしまうのか、深みにはまっていくのか。時間間隔の感覚が、通常は横に流れてとらえるものが、上下になっているのかもしれない。

意識がすっと頭または心にぐっと集中し、一点にとどまって、頭のあるか上に向かうか、心のぐっと深みにはまるか。その間に実際の時間はすぎて、われにかえった時にはずいぶん時間が経っていた、という感じか。

そう考えると、発達個性という言葉の方がふさわしい気がする。そもそも、害という字の使い方は気をつけたい。人については、最近はひらがなで書くことも多くなった。

ちなみに『常用字解』（白川静）によると、「害」はもともと、「祈りの効果の実現を邪魔する」意味だそう。

2023年2月24日（金） 雨

今日は雨、気温は上がっても8℃どまりの予報。冷たい雨の一日。

－ 役立つ －

例年何かしら1つ深掘りするテーマにふれることになる。仕事に限らず、ちょっとしたきっかけで問題意識がめばえ、まずは本をあたって、自分なりに勉強をする。一昨年は「心理」だった。

脳科学、認知科学の方が個人的にはしっくりきて、心理学に馴染みは無かった。でも、どのみち一つの分野で人のこころはわかるようなものではないので、心理学に手をのばす気になった。

昨年は「中井久夫」の個人的再発見と「老子」の融合というか…。一昨年の「心理」の時のように、勉強のまとめ体系図が6ページ残るといった目にみえる勉強の成果はないけど、自分の精神に微妙な変化はもたらしている。そう覚っている。

今年は、いまのところ「孫子」。いやいや、「老子」から「孫子」の流れは一対と考えられる。そう考えていい。

昨年「老子」を読みはじめてしばらくした時にこんなことを想った。“2018年に買って4年そのまま置いていた「老子」を読むことになったというのは、これは、この先にこの学びを必要とする何かが待っているのかもしれない…”。

今あらためて考えると、そうじゃないなぁ。この先に待っているのではなく、同時進行で今まさに必要で、『ぼく自身のノオト』の著者・ヒューブレイザーがいうように、『他人にもっとも役に立つようにするためには、現在の自分にとってもっとも役に立つようなことをすればいい』ということ。

先日ある人にこの言葉を紹介した。昨夜その本人から誰の言葉か詳しく教えてほしいとメールが入っていた。そのことがあって、これを書いたわけではないが、なぜか、思いがけず、この言葉に至った。

2023年2月27日（月） 晴

今朝はよく晴れている。陽ざしが春、でも気温は低い。昨日の昼前あたりから急に寒くなった。真冬にもどった感じ。冬の寒さはこれが最後？

― 生産性のピーク ―

2006年6月5日付の日経「あすへの話題」に載った『男と女の生産性』のことをよく紹介する。生産性のピーク、簡単にいえば、一の努力で十の成果を生み出すパワーやエネルギーがみなぎっているとき。

それが、男性は20代で急にあがり、30代がピークで、40代に入ると急降下する。一方女性はというと、急に上がることはなく、ゆるやかに上がって、ピークは45才から65才の20年とのこと。

もちろん性差よりも個人差の方が大きいということはふまえた上で、でも女性たちを叱咤激励する時にこの話のチカラを借りる。ほとんどの人が「わっ！」という感じで目を輝かせる、これからだ、今だ！と。

たぶんそう感じること、その気になることに意味があるのだと思う。その気が心身を活気づかせて、言動をかえ、フランスの数学者のいう『いったん決定を下してしまえば、自己成就の効果が期待できる』につながり、「孫子」の説く、『務めは信なるべき（なしとげようと務める事が必ずそのとおりに実現する）』へと導くのではないか。

実際、「あのお話が印象的で、ほんとうに励みになりました」と、久しぶりに会った時に言ってくれる人もいる。ある専門分野にチャレンジして国家資格も取得し、今は自分の納得できる状態で仕事ができていると。

人生後半、いい波にのり、『終わり良ければ総て良し』にしたいもの。